

ホテル

佐原伸
(株)CSK システムズ
通信グループ
VDM 担当

2006 年 10 月 5 日

概要

参考文献 [1] 付録 E のホテル部屋の鍵掛けの例題の欠陥を修正し、日本語化し、実行可能仕様とした。

目次

1	問題の概要	3
1.1	Hotel	4
1.2	Hotel の回帰テストケース	8
1.3	TestDriver	14
1.4	TestLogger	15

1 問題の概要

ホテルの客は、チェックイン時に、フロントで、部屋の鍵となるカードを受け取る。

カードは2つの鍵を持ち、この鍵はその後変わることはない。

フロントは、これまでに発行したカードと、使用済みのカードを記録している。

客が、カードを使って部屋に入ると、前の客のカードでは部屋に入れなくなる。

客は、再度チェックインすることで、新たな鍵となるカードを受け取ることができるが、新しいカードを使うと、古いカードでは部屋に入れなくなる。

1.1 Hotel

ホテルの状態を、状態変数 `Hotel` で表す。

発行済の「鍵」の集合（発行済）と、どの部屋にどの鍵が使用されたかの情報（使用済）は、フロントが管理している。どの部屋にどの鍵が対応しているかは、「部屋」から「鍵」への写像（部屋の鍵）が記録している。どの客がどのカードを持っているかは、「客」から「カード」集合への写像（客）が記録している。新しい鍵の候補は、`keys` が持っている。

参考文献 [1] では、新しい鍵を割り当てるために型束縛を使っているが、仕様を実行可能とするため、本仕様では、新しい鍵は 1 から 9999 までの値を取るようにして、集合束縛により実行が可能ないようにした。この値を、あまり大きくすると、仕様実行の際、初期設定で時間がかかってしまう。

もちろん、「鍵」や「部屋」の型を `nat` にしているのは、実装のための指定ではない。型の詳細をまだ決めたくない場合、一般的には `token` 型を使うのだが、テストケースの記述が長くなるのを避けるため、便宜上、`nat` 型を使っているだけである。

```
module 『ホテル』
definitions
types
「鍵」 = nat;
「部屋」 = nat;
「客」 = token;

「カード」 ::
  第一 : 「鍵」
  第二 : 「鍵」;
「フロント」 ::
  発行済 : set of 「鍵」
  使用済 : map 「部屋」 to 「鍵」
  inv f == rng f. 使用済 subset f. 発行済;

state Hotel of
  フロント : 「フロント」
  部屋の鍵 : map 「部屋」 to 「鍵」
  客 : map 「客」 to set of 「カード」
  keys : set of nat
inv h ==
  dom h. フロント. 使用済 subset dom h. 部屋の鍵 and
  dunion { {c. 第一, c. 第二} | c in set dunion rng h. 客 } subset h. フロント. 発行済
init
```

```

h ==
  h =
    mk_Hotel(
      mk_「フロント」({}, {|->}),
      {|->},
      {|->},
      {1,...,9999}
    )
end

```

1.1.1 チェックイン

新しい鍵を持つ新カードを発行し、その鍵を発行済・使用済の情報に記録する。新カードの情報を、客写真に追加する。

```

operations
チェックイン : 「客」* 「部屋」 ==> 「カード」
チェックイン (guest, room) ==
  let 新鍵 in set keys be st 新鍵 not in set フロント. 発行済 in
  let
    新カード = mk_「カード」(フロント. 使用済 (room), 新鍵)
  in (
    フロント. 発行済 := フロント. 発行済 union { 新鍵 };
    フロント. 使用済 := フロント. 使用済 ++ {room |-> 新鍵 };
    客 :=
      if guest in set dom 客 then
        客 ++ {guest |-> 客 (guest) union { 新カード }}
      else
        客 munion {guest |-> { 新カード }};
    return 新カード
  )
pre
  room in set dom フロント. 使用済
post
  exists 新鍵 in set keys &
    新鍵 not in set フロント~. 発行済 and
  let
    新カード = mk_「カード」(フロント~. 使用済 (room), 新鍵) in
    フロント. 発行済 = フロント~. 発行済 union { 新鍵 } and

```

```

フロント.使用済 = フロント~.使用済 ++ {room |-> 新鍵} and
if guest in set dom 客~ then
  客 = 客~ ++ {guest |-> 客~(guest) union {新カード}}
else
  客 = 客~ munion {guest |-> {新カード}};

```

1.1.2 チェックイン陰仕様

```

チェックイン陰仕様 : 「客」* 「部屋」 ==> ()
チェックイン陰仕様 (guest, room) == is not yet specified
pre
  room in set dom フロント.使用済
post
  exists 新鍵 : 「鍵」 &
    新鍵 not in set フロント~.発行済 and
  let
    新カード = mk_「カード」(フロント~.使用済 (room), 新鍵) in
    フロント.発行済 = フロント~.発行済 union {新鍵} and
    フロント.使用済 = フロント~.使用済 ++ {room |-> 新鍵} and
  if guest in set dom 客~ then
    客 = 客~ ++ {guest |-> 客~(guest) union {新カード}}
  else
    客 = 客~ munion {guest |-> {新カード}};

```

1.1.3 入る

客が部屋にはいると、部屋の鍵がカードの第二の鍵になるので、前の客の鍵は使えなくなる。

```

入る : 「部屋」* 「客」* 「カード」 ==> bool
入る (room, guest, c) == (
  if c.第一 = 部屋の鍵 (room) then (
    部屋の鍵 := 部屋の鍵 ++ {room |-> c.第二};
    return true
  )
  elseif c.第二 = 部屋の鍵 (room) then
    return true
  else

```

```

        return false
    )
pre
    room in set dom 部屋の鍵 and guest in set dom 客 and
    c in set 客 (guest)
post
    if c in set 客 (guest) and
        (c. 第一 = 部屋の鍵~(room) and 部屋の鍵 = 部屋の鍵~ ++ {room |-> c. 第二} or
        c. 第二 = 部屋の鍵~(room) and 部屋の鍵 = 部屋の鍵~ )
    then
        RESULT = true
    else
        RESULT = false
;

```

1.1.4 入る陰仕様

入る陰仕様 : 「部屋」*「客」 ==> bool

入る陰仕様 (room, guest) == is not yet specified

```

pre
    room in set dom 部屋の鍵 and guest in set dom 客 and
    exists c in set 客 (guest) & c. 第一 = 部屋の鍵 (room) or c. 第二 = 部屋の鍵 (room)
post
    if exists c in set 客 (guest) &
        c. 第一 = 部屋の鍵~(room) and 部屋の鍵 = 部屋の鍵~ ++ {room |-> c. 第二} or
        c. 第二 = 部屋の鍵~(room) and 部屋の鍵 = 部屋の鍵~
    then
        RESULT = true
    else
        RESULT = false;

```

1.1.5 ホテル状態を設定する

ホテル状態を設定する :

「フロント」* map 「部屋」 to 「鍵」 * map 「客」 to set of 「カード」 ==> Hotel
 ホテル状態を設定する (a フロント, 部屋の鍵写像, 客写像) == (

```

    atomic (
        フロント := a フロント;
        部屋の鍵 := 部屋の鍵写像;
        客 := 客写像
    );
    return Hotel
);

```

1.1.6 ホテル状態を得る

```

ホテル状態を得る : () ==> Hotel
ホテル状態を得る () == return Hotel;

end 『ホテル』

```

```

vdm.tc[ 『ホテル』 ]

```

1.2 Hotel の回帰テストケース

module Hotel の回帰テストケース。
 t1(), t2(), ... などの各テストケースが返す TestDriver'TestCase 型の 2 番目の引数は、true を返す式でなければならない。

```

module HotelT
imports
    from TestDriver all,
    from 『ホテル』 all

definitions
values
    チェックイン = 『ホテル』 'チェックイン;
    入る = 『ホテル』 '入る;
    ホテル状態を得る = 『ホテル』 'ホテル状態を得る;
    ホテル状態を設定する = 『ホテル』 'ホテル状態を設定する;

functions
run : () +> bool

```



```

run() ==
let   testcases = [ t1(), t2(), t3(), t4(), t5(), t6()]
in
TestDriver`run(testcases);

```

1.2.1 初めてのチェックイン

```

operations
t1 : () ==> TestDriver`TestCase
t1() ==
  let
    key1 = 1, key2 = 2, key3 = 3,
    room1 = 101, room2 = 102,
    佐原 = mk_token("佐原"),
    oldhotel =
      ホテル状態を設定する (
        mk_『ホテル』`「フロント」({key1, key2, key3}, {room2 |-> key2}),
        {room1 |-> key1, room2 |-> key2},
        {|->}
      ),
    - = チェックイン(佐原, room2),
    hotel = ホテル状態を得る ()
  in
  return
    mk_TestDriver`TestCase(
      "HotelT01:\t 初めてのチェックイン",
      exists 新鍵 in set oldhotel.keys &
        新鍵 not in set oldhotel.フロント.発行済 and
      let
        新カード = mk_『ホテル』`「カード」(oldhotel.フロント.使用済(room2), 新鍵) in
        hotel.フロント.発行済 = oldhotel.フロント.発行済 union { 新鍵 } and
        hotel.フロント.使用済 = oldhotel.フロント.使用済 ++ {room2 |-> 新鍵} and
        hotel.客 = oldhotel.客 munion { 佐原 |-> { 新カード }}
    )
;

```

1.2.2 2回目以後のチェックイン

```
t2 : () ==> TestDriver'TestCase
t2() ==
  let
    key1 = 1, key2 = 2, key3 = 3,
    room1 = 101, room2 = 102,
    佐原 = mk_token("佐原"),
    - =
      ホテル状態を設定する (
        mk_『ホテル』'「フロント」({key1, key2, key3}, {room2 |-> key2}),
        {room1 |-> key1, room2 |-> key2},
        {|->}
      ),
    - = チェックイン (佐原, room2),
    oldhotel = ホテル状態を得る (),
    - = チェックイン (佐原, room2),
    hotel = ホテル状態を得る ()
  in
  return
    mk_TestDriver'TestCase(
      "HotelT02:\t 2回目以後のチェックイン",
      exists 新鍵 in set oldhotel.keys &
        新鍵 not in set oldhotel.フロント.発行済 and
      let
        新カード = mk_『ホテル』'「カード」(oldhotel.フロント.使用済 (room2), 新鍵) in
        hotel.フロント.発行済 = oldhotel.フロント.発行済 union { 新鍵 } and
        hotel.フロント.使用済 = oldhotel.フロント.使用済 ++ {room2 |-> 新鍵} and
        hotel.客 = oldhotel.客 ++ { 佐原 |-> oldhotel.客 (佐原) union { 新カード }}
    )
  ;
```

1.2.3 入る (第一鍵に一致)

```
t3 : () ==> TestDriver'TestCase
t3() ==
```

```

let
  key1 = 1, key2 = 2, key3 = 3,
  room1 = 101, room2 = 102,
  佐原 = mk_token("佐原"),
  - =
    ホテル状態を設定する (
      mk_『ホテル』'フロント'({key1, key2, key3}, {room2 |-> key2}),
      {room1 |-> key1, room2 |-> key2},
      {|->}
    ),
  c = チェックイン(佐原, room2),
  oldhotel = ホテル状態を得る(),
  - = 入る(room2, 佐原, c),
  hotel = ホテル状態を得る()
in
  return
    mk.TestDriver'TestCase(
      "HotelT03:\t 入る(第一鍵に一致)",
      c in set hotel.客(佐原) and
      (c.第一 = oldhotel.部屋の鍵(room2) and
        hotel.部屋の鍵 = oldhotel.部屋の鍵 ++ {room2 |-> c.第二} or
        c.第二 = oldhotel.部屋の鍵(room2) and
        hotel.部屋の鍵 = oldhotel.部屋の鍵)
    );

```

1.2.4 入る(第二鍵に一致)

```

t4 : () ==> TestDriver'TestCase
t4() ==
  let
    key1 = 1, key2 = 2, key3 = 3,
    room1 = 101, room2 = 102,
    佐原 = mk_token("佐原"),
    - =
      ホテル状態を設定する (
        mk_『ホテル』'フロント'({key1, key2, key3}, {room2 |-> key2}),
        {room1 |-> key1, room2 |-> key2},
        {|->}
      )

```

```

    ),
    c = チェックイン (佐原, room2),
    - = 入る (room2, 佐原, c),
    oldhotel = ホテル状態を得る (),
    - = 入る (room2, 佐原, c),
    hotel = ホテル状態を得る ()
in
return
    mk_TestDriver 'TestCase(
        "HotelT04:\t 入る (第二鍵に一致)",
        c in set hotel. 客 (佐原) and
        (c. 第一 = oldhotel. 部屋の鍵 (room2) and
            hotel. 部屋の鍵 = oldhotel. 部屋の鍵 ++ {room2 |-> c. 第二} or
            c. 第二 = oldhotel. 部屋の鍵 (room2) and
            hotel. 部屋の鍵 = oldhotel. 部屋の鍵)
    );

```

1.2.5 前の客のカードでは入れない。

```

t5 : () ==> TestDriver 'TestCase
t5() ==
    let
        key1 = 1, key2 = 2, key3 = 3,
        room1 = 101, room2 = 102,
        佐原 = mk_token("佐原"),
        酒匂 = mk_token("酒匂"),
        - =
            ホテル状態を設定する (
                mk_『ホテル』『フロント』({key1, key2, key3}, {room2 |-> key2}),
                {room1 |-> key1, room2 |-> key2},
                {|->}
            ),
        c = チェックイン (佐原, room2),
        - = 入る (room2, 佐原, c),
        c1 = チェックイン (酒匂, room2),
        - = 入る (room2, 酒匂, c1),
        - = ホテル状態を得る (),
        err = 入る (room2, 佐原, c)

```

```

in
  return
    mk.TestDriver'TestCase(
      "HotelT05:\t 前の客のカードでは入れない。",
      not err
    );

```

1.2.6 自分自身でも、前のカードでは入れないが、新しいカードでは入れる。

```

t6 : () ==> TestDriver'TestCase
t6() ==
  let
    key1 = 1, key2 = 2, key3 = 3,
    room1 = 101, room2 = 102,
    佐原 = mk.token("佐原"),
    - =
      ホテル状態を設定する (
        mk_『ホテル』'「フロント」({key1, key2, key3}, {room2 |-> key2}),
        {room1 |-> key1, room2 |-> key2},
        {|->}
      ),
    c = チェックイン (佐原, room2),
    - = 入る (room2, 佐原, c),
    c1 = チェックイン (佐原, room2),
    - = 入る (room2, 佐原, c1),
    - = ホテル状態を得る (),
    oldcard = 入る (room2, 佐原, c),
    newcard = 入る (room2, 佐原, c1)
  in
    return
      mk.TestDriver'TestCase(
        "HotelT05:\t 自分自身でも、前のカードでは入れないが、新しいカードでは入れる。",
        not oldcard and newcard
      );
end HotelT

```

vdm.tc[HotelT]

1.3 TestDriver

回帰テストを実行するモジュール。

TestCase 型は、テストケース 1 件を表す。

```
--£Id: TestDriver.vpp,v 1.1 2005/10/31 02:09:59 vdmtools Exp £
module TestDriver
imports from
    TestLogger all

exports all

definitions
types
TestCase ::
    testCaseName : seq of char
    testResult : bool;

functions
```

run は、与えられたテストケース列から結果列を得る。結果がすべて true ならば全体成功メッセージを表示し、1 つでも失敗があれば全体失敗メッセージを表示する。

```
run: seq of TestCase -> bool
run(t) ==
    let    m = "Result-of-testcases.",
          r = [isOK(t(i)) | i in set inds t]
    in
    if forall i in set inds r & r(i) then
        TestLogger'SuccessAll(m)
    else
        TestLogger'FailureAll(m);
```

isOK は、与えられたテストケースのテスト結果を確認し、true ならば成功メッセージを表示し、false ならば失敗メッセージを表示する。

```

isOk: TestCase +> bool
isOk(t) ==
  if GetTestResult(t) then
    TestLogger'Success(t)
  else
    TestLogger'Failure(t);

```

GetTestResult は、テスト結果を得る。

```

GetTestResult : TestCase +> bool
GetTestResult(t) == t.testResult;

```

GetTestName は、テスト名を得る。

```

GetTestName: TestCase +> seq of char
GetTestName(t) == t.testCaseName;

```

```

end TestDriver

```

[TestDriver]vdm.tc[TestDriver]

1.4 TestLogger

テストのログを管理する関数を提供する。

```

--£Id: TestLogger.vpp,v 1.1 2005/10/31 02:09:59 vdmtools Exp £
module TestLogger
imports
  from IO all,
  from TestDriver
    types TestCase
    functions GetTestName

exports all

definitions

```

```
values
historyFileName = "VDMTESTLOG.TXT";
```

```
operations
```

Success は、成功メッセージをファイルに追加し、標準出力に表示し、true を返す。

```
Success: TestDriver'TestCase ==> bool
Success(t) ==
  let  message = TestDriver'GetTestName(t) ^ "\tOK.\n"
  in (
    Fprint (message);
    Print(message);
    return true
  );
```

Failure は、失敗メッセージをファイルに追加し、標準出力に表示し、false を返す。

```
Failure: TestDriver'TestCase ==> bool
Failure(t) ==
  let  message = TestDriver'GetTestName(t) ^ "\tNG.\n"
  in (
    Fprint (message);
    Print (message);
    return false
  );
```

SuccessAll は、全体成功メッセージをファイルに追加し、標準出力に表示し、true を返す。

```
SuccessAll : seq of char ==> bool
SuccessAll(m) ==
  let  message = m ^ "\tOK!!\n"
  in (
    Fprint (message);
    Print (message);
    return true
  );
```

FailureAll は、全体失敗メッセージをファイルに追加し、標準出力に表示し、false を返す。

```
FailureAll : seq of char ==> bool
FailureAll(m) ==
  let message = m ^ "\tNG!!\n"
  in (
    Fprint (message);
    Print (message);
    return false
  );
```

Print は、標準出力に文字列を表示する。

```
Print : seq of char ==> ()
Print (s) ==
  def - = IO'echo(s) in skip;
```

Fprint は、現在ディレクトリの historyFileName で示されるファイルに文字列を表示する。

```
operations
Fprint : seq of char ==> ()
Fprint (s) ==
  def - = IO'fecho(historyFileName, s, <append>) in skip;

end TestLogger
```

[TestLogger]vdm.tc[TestLogger]

参考文献

参考文献

- [1] Daniel Jackson. *Software Abstraction : Logic, Language, Analysis*. The MIT Press, Cambridge, Massachusetts, London, 2006.